朝日新聞(朝刊)

北の文化

ほっかいどう 土曜考える

・火曜 学ぶ ・水曜 生きる ・木曜 よむ・語る ・金曜 楽しむ

遠友夜学校 120周年に

中川厚雄 元道立高校教師

崇高な精神、歴史伝えたい

「如何お暮しですか。貴女がこの地獄部屋の様な働き部屋から去って早や一月……戦争があるとかで工場は忙しくこの頃は夜も続けて働くのです……」

1934（昭和9）年の遠友夜学校の女生徒の会誌「文の園」に載った一文だ。中学2年の女子生徒が、「書簡文」の題で、友人に宛てて書いた手紙を掲載したものらしい。

私は、この女子生徒の息子だという方から、「母が遠友夜学校に通っていたことを確かめたい」と依頼され、様々な資料を調べた。そして見つけたのがこの文章だった。投稿は他にも見つかり、思春期らしい人生への真剣な悩みや葛藤をつづった文章などもあり、そこからは当時の暮らしと夜学校での学生生活が浮かんできた。

遠友夜学校は、新渡戸稲造が1894（明治27）年に創設した。経済的理由などで学校に通えない子供や晩学者らのための無料の学校だ。教師は、新渡戸をはじめ、札幌農学校（後に北海道大）の有志の教師や学生らが務め、50年間続いた。

◇ ◆ ◇

私は、高校教師をしていた時に、夜学校の精神を継いで教育関係者らが作った遠友塾自主夜間中学に誘われた。1990年から毎週水曜日、仕事を終えると市民会館へ出かけ、この塾で教えるという体験をした。それがきっかけで、ほとんど知らなかった遠友夜学校の精神や歴史について調べ始めた。

遠友夜学校の日誌類。一部は火事で焼失した

当時は、夜学校の跡地にあった札幌市の中央勤労青少年ホーム内に資料が収められており、私は文集や日誌類をひもといて夜学校の歩みをたどった。そして94年の夜学校創立100周年記念事業の際に事務局が作成した、教師・生徒の住所録を借りることができた。それを元に私は約100人の教師・生徒に手紙を送り、およそ6割の方から返事をもらった。手紙で当時のことを教えてもらったほか、何人かには直接会って夜学校の話を聞くこともできた。

夜学校には、例えば小学校しか出ることができず、大人になってから働きながら勉強するために通う人も少なくなかった。そんな生徒たちそれぞれの事情や、熱意にあふれた教師とのふれあい、授業や課外活動の様子……。遠友夜学校は、友愛とリンカーンの人類愛、学んだことを実行しなさいという精神を基礎とし、優れた人格形成に努めた学校であった。私は生徒たちの貴重な証言やアルバムなどの資料を、300ページを超える冊子「『遠友夜学校』研究～昭和初期の生徒を中心に」として2010年にまとめることができた。

その後、遠友夜学校記念室のある札幌市資料館（記念室は今月、展示を終了し、資料は北海道大学に寄贈）のボランティアガイドをしていた私が次に取り組んだのが、夜学校の在籍者の名簿の復活だ。1944（昭和19）年まで続いた夜学校では5千人以上が学んだとされるが、在籍簿や教務日誌などの一部は焼失し、これまでにわかっている教師・生徒の氏名は約千人分ほど。冒頭に書いたように、ガイドをしていると、親や親戚が夜学校に在籍していたかどうか尋ねられることが度々ある。

◇ ◆ ◇

そこで昨年から、生徒たちが書いた文集や日誌類などに目を通し、そこに出てくる生徒や教師の名前などをカードに記録していく作業をボランティア仲間らと続けている。これまでに生徒・教師合わせて千人以上の名前が新たにわかった。

今年は遠友夜学校開校120周年にあたる。在籍者の名を明らかにする仕事はいつ終わるかわからない。しかし崇高な精神を貫いたこの学校の歴史を、少しでも後世に伝えたいと思うのである。

◇

1938年、札幌市生まれ。元道立高校教師。